

(210617M)

Citation 3:

JP Utility Model Appln. Disclosure No. 64-29708 - Feb. 22, 1989

Application No. 62-123929 - August 13, 1987

Priority: None

Inventor: Toshihiko SAKAGUCHI, Osaka, Japan

Tadafumi MURAKAMI, Osaka, Japan

Tadahiro OTSUKA, Osaka, Japan

Applicant: Matsushita Denko K.K., Osaka, Japan

Title: Lighting fitting

Detailed Description of the Device:

As shown in Fig. 5, in order to prevent the corner of the light conducting plate 2 from darkening, the light conducting plate 2 is made to shape a trapezium by shortening the length of the end part opposite to the lamp 1, and the uniformity of ratio of illuminance can be improved by coupling these plates.

## ⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭64-29708

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>F 21 V 8/00  
F 21 S 3/00

識別記号

府内整理番号

A-6908-3K  
Z-6941-3K

⑭ 公開 昭和64年(1989)2月22日

審査請求 未請求 (全2頁)

⑮ 考案の名称 照明器具

⑯ 実 願 昭62-123929

⑰ 出 願 昭62(1987)8月13日

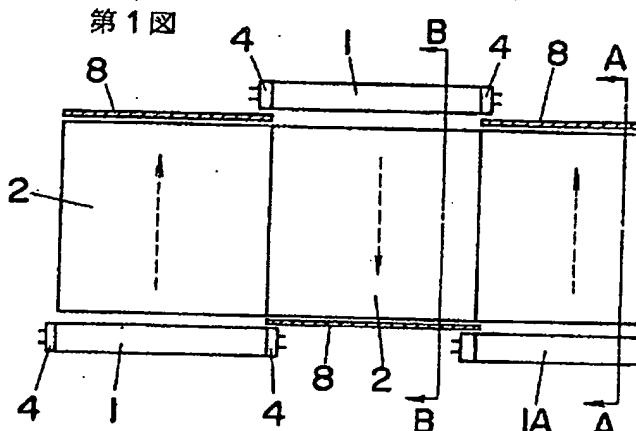
⑮ 考案者 阪口 敏彦 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内  
 ⑯ 考案者 村上 忠史 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内  
 ⑰ 考案者 大塚 忠弘 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内  
 ⑱ 出願人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地  
 ⑲ 代理人 弁理士 石田 長七

## ⑳ 実用新案登録請求の範囲

長尺物のランプと、このランプから出た光を該ランプの長手方向に沿つて対面する端面から内部を通して一面より光を出す平板状の導光板とで構成される平面光源体を形成し、該平面光源体をランプの長手方向に連結し、導光板の連結方向の長さとランプの発光長とを略同じにすると共に、隣合う平面光源体のランプを互い違いに配設して成る照明器具。

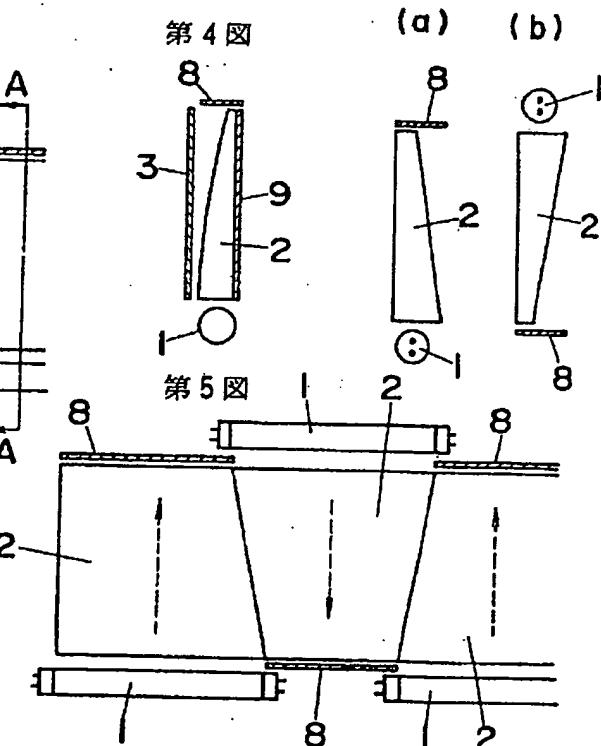
## 図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例の配置構成図、第2図

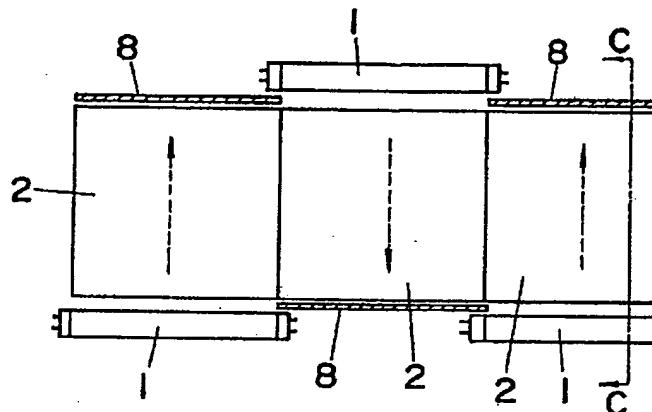


aは同上の第1図のA-A断面図、第2図bは同上の第1図のB-B断面図、第3図は同上の他の実施例の配置構成図、第4図は同上の第3図のC-C断面図、第5図は同上の更に他の実施例の配置構成図、第6図は従来例のエッジライトの平面図、第7図は同上の側面図、第8図は従来例の配置構成図、第9図は同上の側面図、第10図は他の従来例の内照式の平面図、第11図は同上の側面図である。

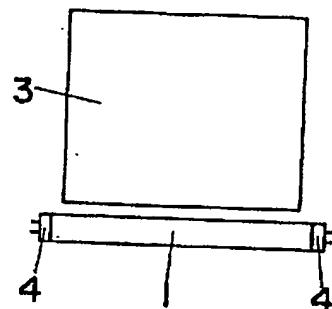
1はランプ、2は導光板である。第2図



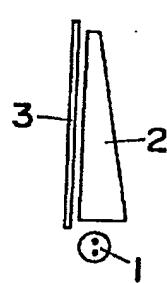
第3図



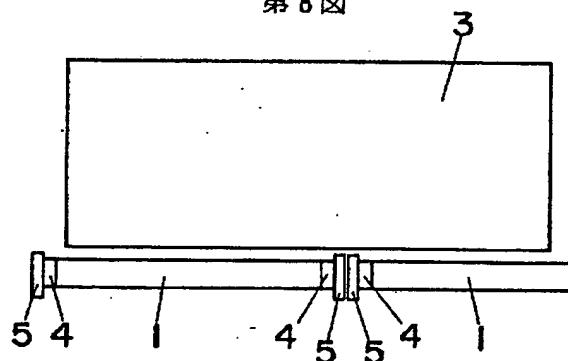
第6図



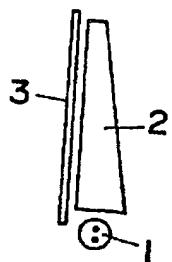
第7図



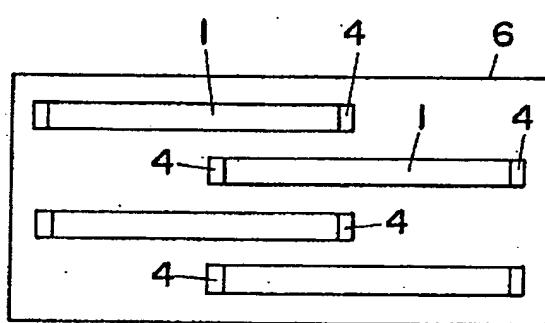
第8図



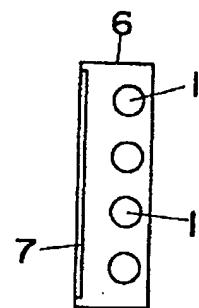
第9図



第10図



第11図



# 公開実用 昭和64- 29708

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

## ⑫ 公開実用新案公報 (U) 昭64-29708

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

F 21 V 8/00  
F 21 S 3/00

識別記号

厅内整理番号

A-6908-3K  
Z-6941-3K

⑭ 公開 昭和64年(1989)2月22日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 照明器具

⑯ 実 願 昭62-123929

⑰ 出 願 昭62(1987)8月13日

⑱ 考案者 口 敏彦 大阪府門真市大字門真1048番地 松下电工株式会社内

⑲ 考案者 村上 忠史 大阪府門真市大字門真1048番地 松下电工株式会社内

⑳ 考案者 大塚 忠弘 大阪府門真市大字門真1048番地 松下电工株式会社内

㉑ 出願人 松下电工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地

㉒ 代理人 弁理士 石田 長七

## 明細書

### 1. 考案の名称

照明器具

### 2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 長尺物のランプと、このランプから出た光を該ランプの長手方向に沿って対面する端面から内部を通して一面より光を出す平板状の導光板とで構成される平面光源体を形成し、該平面光源体をランプの長手方向に連結し、導光板の連結方向の長さとランプの発光長とを略同じにすると共に、隣合う平面光源体のランプを互い違いに配設して成る照明器具。

### 3. 考案の詳細な説明

#### 【技術分野】

本考案は、面照明を行なう所謂1灯用のエッジライトを複数連結した照明器具に関するものである。

#### 【背景技術】

ここにいうエッジライトとは、第6図及び第

7図に示すように、光源である長尺物のランプ1及び導光板2とで構成されるものであり、アクリル等の樹脂で形成された導光板2は四角平板状でランプ1側は厚みが厚く、ランプ1から遠のくほど薄く形成してある。厚肉となっている導光板2の端面側に両端に口金部4を有するランプ1が対面して配置され、ランプ1から出た光は導光板2の端面から入り、内部を通して表示面である一面から光を出すようになっている。その表示面の前面には光を拡散する拡散板3が配置してある。ここで、ランプ1、及び導光板2とからなるエッジライトが平面光源体を構成している。かかるエッジライトにおいて、その特徴として器具の厚みを薄くできること、導光板2の表示面に熱が伝わらないこと、ランプイメージが少ないということが挙げられる。

しかしながら、かかるエッジライトを長くしようとした場合には、次のような問題がある。すなわち、第8図及び第9図に示すように、複数のランプ1をその長手方向に配置すると、非発光部

分である口金部4とソケット5とが存在し、この部分により暗い部分が生じることになる。また、第10図及び第11図に示すような内照式の場合でもランプ1の口金部4の影響が出てしまう。この内照式というのは、本体6内にランプ1を有し、本体6の表面に乳白樹脂等の拡散板7を有する方式であり、この方式でもランプ1の口金部4の影響が出て暗くなる部分がある。

#### [考案の目的]

本考案は、上述の点に鑑みて提供したものであって、均一な面照明を達成することを目的とした照明器具を提供するものである。

#### [考案の開示]

##### (構成)

本考案は、長尺物のランプと、このランプから出た光を該ランプの長手方向に沿って対面する端面から内部を通して一面より光を出す平板状の導光板とで構成される平面光源体を形成し、該平面光源体をランプの長手方向に連結し、導光板の連結方向の長さとランプの発光長とを略同じにする。

ると共に、隣合う平面光源体のランプを互い違いに配設することにより、ランプの口金部やソケットの影響をなくして、均一な面照明を達成するようとしたことを特徴とするものである。

(実施例)

以下、本考案の実施例を図面により説明する。第1図及び第2図において、エッジライトをランプ1の長手方向に連結する場合に、ランプ1の発光長と導光板2との長さを同じにし、且つ、ランプ1を連結方向に対して互い違いに配置しているものである。このように、各導光板2の長さと、ランプ1の発光長との長さを同じにしていることで、全体に均一な面照明を達成することができる。尚、図中の矢印の破線は導光板2の導光方向を示している。

しかし、一灯のランプ1と1枚の導光板2とによるエッジライトで良好な照明状態を達成しているため、これを長手方向にいくら連結しても、容易に長尺物の良好な照明状態を薄型器具で達成できるものである。かかる器具は、例えば、ビン

等の目視検査用の横長の均一な照明へ容易に対応ができるものである。第2図(a)は第1図のA-A断面図を、第2図(b)は第1図のB-B断面図を夫々示している。尚、ランプ1とは反対側の導光板2の端部側には遮光板8が配置してある。これは、導光板2の反対側から光が入射しないようにしているものである。

第1図は一般的な形状の導光板2を有するエッジライトを連結したものであるが、エッジライト単体の構成はこの形状に限らないものである。第3図及び第4図は、より均齊度を上げるために、全反射と拡散反射、透過拡散をうまく利用したエッジライトの例を示すものである。この場合、透明の導光板2の表示面とは反対側の面に拡散反射膜9を設け、表示面側に拡散板3を設けている。また、ランプ1についても、一般のランプのみでなく、アバーチャーランプやリフレクタランプでもよい。

第1図や第3図の1エッジライト当たりのランプ1側と反対側の導光板2のコーナーが若干暗

くなる。そこで、第5図に示すように、導光板2のコーナーが暗くなるのを防止するために、導光板2のランプ1とは反対側の端部の長さを短くした台形状にして、これらを組み合わせることで、より均齊度を上げることができるものである。

[考案の効果]

本考案は上述のように、長尺物のランプと、このランプから出た光を該ランプの長手方向に沿って対面する墙面から内部を通して一面より光を出す平板状の導光板とで構成される平面光源体を形成し、該平面光源体をランプの長手方向に連結し、導光板の連結方向の長さとランプの発光長とを略同じにすると共に、隣合う平面光源体のランプを互い違いに配設したものであるから、ランプの口金部やソケットの影響をなくして、ランプの長手方向に平面光源体を連結しても、均一な面照明を達成することができ、そのため、例えば、ピン等の目視検査用の横長の均一な照明へ容易に対応できる効果を奏するものである。

4. 図面の簡単な説明

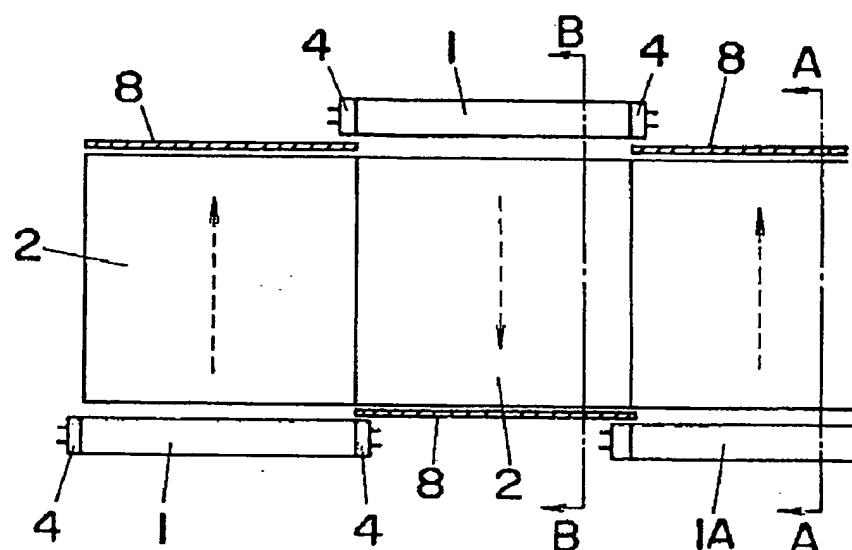
第1図は本考案の実施例の配置構成図、第2図(a)は同上の第1図のA-A断面図、第2図(b)は同上の第1図のB-B断面図、第3図は同上の他の実施例の配置構成図、第4図は同上の第3図のC-C断面図、第5図は同上の更に他の実施例の配置構成図、第6図は従来例のエッジライトの平面図、第7図は同上の側面図、第8図は従来例の配置構成図、第9図は同上の側面図、第10図は他の従来例の内照式の平面図、第11図は同上の側面図である。

1はランプ、2は導光板である。

代理人 弁理士 石田長七

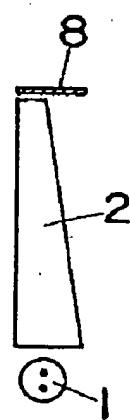
1 … ランプ  
2 … 導光板

第1図

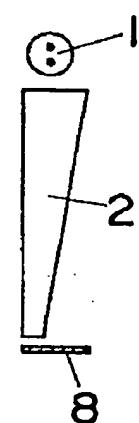


第2図

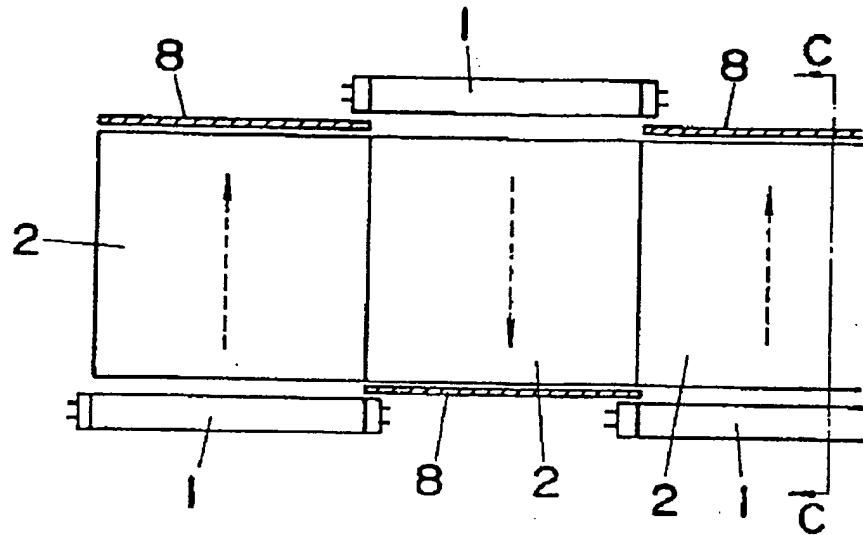
(a)



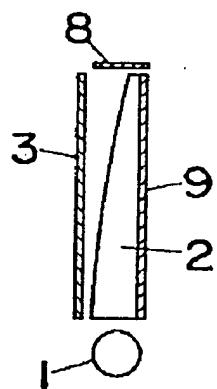
(b)



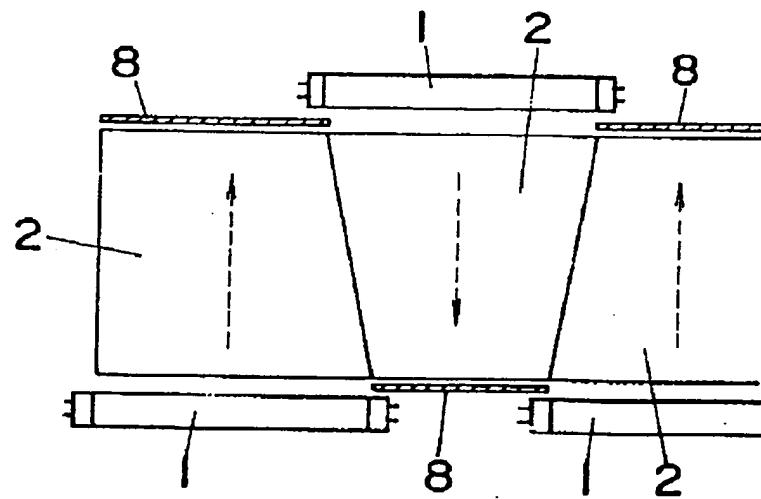
第3図



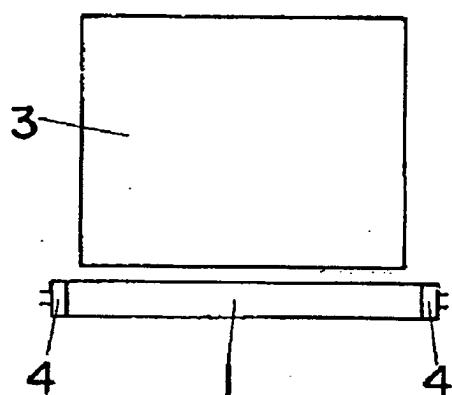
第4図



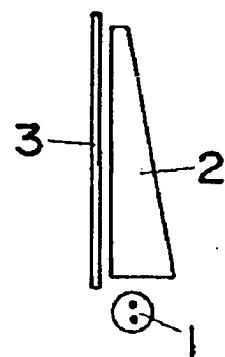
第5図



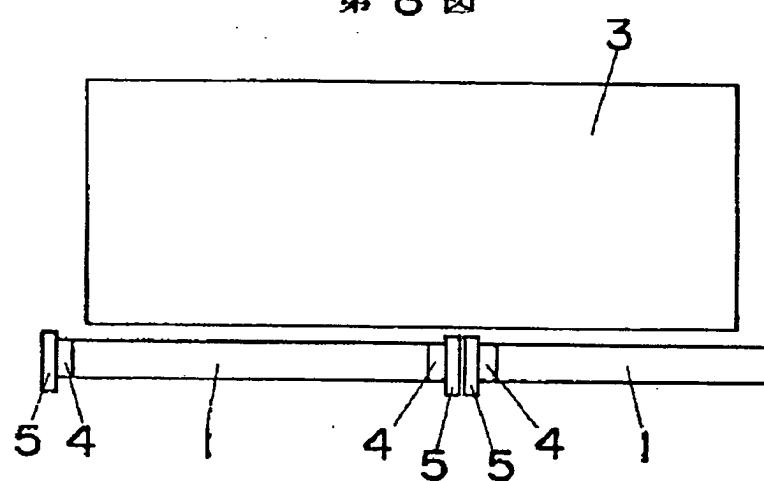
第6図



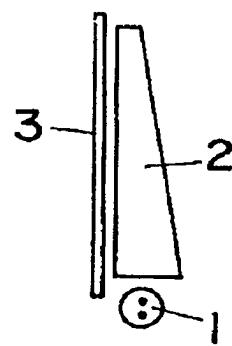
第7図



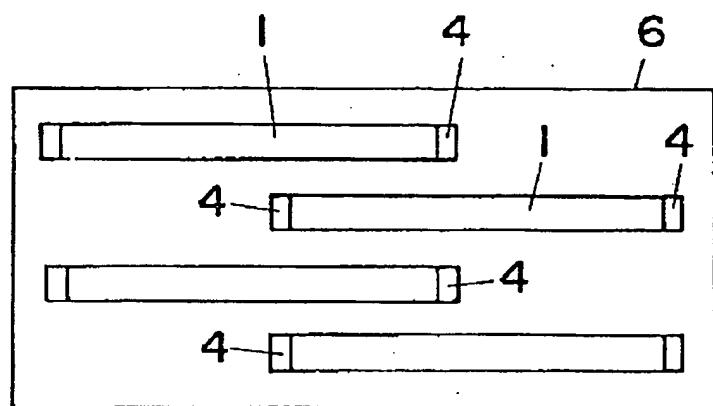
第8図



第9図



第10図



第11図

